

平成 23 年度 事業報告

(平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで)

事業の状況

社会の繁栄の基礎は、科学技術の進歩と産業経済の発展にあるとの考えに基づき、わが国の優れた独創的な研究開発を推進し、科学技術の発展と国民生活の向上に貢献したいという市村氏の想いを実現するため、平成 23 年度も関係各方面の方々のご支援とご協力により、以下の事業活動を積極的に展開し所期の成果を収めました。

また、今年度から東日本大震災復興支援事業にも新たに取り組みました。

1. 科学技術の研究開発助成

1) 新技術開発助成

科学技術に関する独創的な技術を実用化するために技術開発の努力をしている中小企業へ助成する事業です。平成 23 年度は審査委員会の推薦に基づき 25 件（総額 319,620 千円）の助成を決定し、平成 23 年 8 月 2 日及び平成 24 年 2 月 2 日に、財団事務所において助成金を贈呈しました。

2) 復興支援 新技術開発助成

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災で被災したモノ作りに携わる中小企業の速やかな復興を支援するため、平成 23 年度から本助成を行いました。

その結果、審査委員会の推薦に基づき 6 件（総額 60,580 千円）の助成を決定し、平成 23 年 12 月 9 日にウエスティンホテル仙台（仙台市）において助成金を贈呈しました。

3) 復興支援 特定研究助成

上記被災中小企業向け新技術開発助成と共に、震災復興に向けての緊急かつ重要課題解決のため復興支援特定研究助成を行いました。審査委員会の推薦に基づき 3 件（総額 14,350 千円）の助成を決定し、平成 24 年 2 月 17 日に大手町ファーストスクエア（東京）において助成金を贈呈しました。

2. 科学技術の顕彰と国際技術交流

1) 新技術顕彰（市村産業賞、市村学術賞の贈呈）

わが国の科学技術の進歩、産業の発展に顕著な成果を挙げ、産業分野あるいは学術分野の発展に多大の貢献をされた方を顕彰する事業です。

平成 22 年度の第 43 回市村賞は、産業賞で本賞 1 件、功績賞 2 件、貢献賞 5 件、学術賞で功績賞 2 件、貢献賞 5 件の合計 15 件（総額 70,000 千円）に決定しました。

なお、平成 23 年 4 月 28 日に予定しておりました贈呈式は、東日本大震災被害の甚大さに鑑み中止とし、表彰状、賞金を郵送いたしました。

また、第44回市村賞は、審査委員会の推薦に基づき、産業賞では本賞1件、功績賞2件、貢献賞5件、学術賞では功績賞2件、貢献賞5件の合計15件（総額70,000千円）を決定しました。

2) 国際技術交流(国際研究集会参加及び国際研究集会開催への助成)

市村学術賞受賞者が科学技術に関する国際会議、国際研究集会に出席する場合、渡航旅費を5年間に2回まで助成する事業で、平成23年度は8件（総額5,507千円）を助成しました。

また、市村学術賞受賞者がわが国において開催する国際会議等を積極的に行なうための支援として平成21年度から始めた国際研究集会開催助成は、平成23年度は1件（総額950千円）を助成しました。

3. 科学技術の創造性育成

1) 市村アイデア育成（第42回市村アイデア賞の贈呈）

次代を担う小・中学生のアイデアの芽生えを奨励するため、独創的なアイデアを募集し、優れたものを表彰して奨学金を交付し、科学への追求、創造への意欲を高めるよう育成する事業です。

第42回市村アイデア賞の応募総数は17,103件でした。審査委員会の推薦に基づき、その中から個人賞として文部科学大臣賞1件、市村アイデア優秀賞1件、朝日新聞社賞1件、朝日小学生新聞賞1件、朝日中学生ウィークリー賞1件、科学技術館館長賞1件、市村アイデア記念賞6件、市村アイデア奨励賞25件を、団体賞として最優秀団体賞1件、優秀団体賞2件、奨励賞3件を決定しました。

平成23年11月18日に北の丸の「科学技術館」において表彰式を実施し、賞状、トロフィー、奨学金を贈呈しました。また、佳作50件に対し楯を贈呈し表彰しました。なお、個人賞の奨学金と団体賞の賞金の合計は3,730千円でした。

2) 復興支援理科教育助成

東日本大震災で被害を受けた小・中学校の理科教育が停滞しないよう復興支援理科教育助成を行いました。市村アイデア賞審査委員会の推薦に基づき、小・中学校58校（総額12,795千円）の助成を決定し、平成23年12月20日に振り込み、助成しました。

3) キッズ・フロンティア・ワークショップ

小・中学生を対象に科学技術に関する講話や実験・製作などを通して、科学の原理を楽しみながら理解し、科学技術への興味、意欲を高めることを狙いに（公財）日本科学技術振興財団との共催、文部科学省、朝日新聞社、朝日学生新聞社の後援、および（株）リコーの特別協賛で「かがく・夢・あそび」をスローガンにワークショップを実施しました。

平成23年度は、半日コースを平成23年11月18日市村アイデア賞の表彰式後に北の丸の「科学技術館」で実施し、小・中学生37名を含む保護者・引率の先

生など合わせて約１４０名が参加しました。冬休み１日コースは平成２３年１２月１７日、１８日に倉敷市科学センター（倉敷市）にて倉敷市教育委員会、リコージャパン（株）岡山支社、リコーテクノシステムズ（株）の特別協賛を得て小・中学生５８名、保護者１２名が参加し、実施しました。また春休み１日コースは平成２４年３月１０日、１１日に北の丸の「科学技術館」で行い、小・中学生５７名、保護者１８名が参加しました。

４．植物研究助成

第２０回植物研究助成は２１件(27,000 千円)を平成２３年５月６日植物研究園において贈呈しました。

また、第２１回植物研究助成は、植物研究助成審査委員会の推薦に基づき、２２件(32,700 千円)の助成を決定しました。

５．講演会の開催

市村賞受賞者の業績についてより多くの方々に知っていただくため、産業賞受賞記念講演会として平成２３年７月２２日に産業賞・功績賞の日立電線(株)の藤倉主任技師の講演を（株）リコーのテクノロジーセンター（海老名市）にて、また、先端技術講演会として平成２３年１１月２１日に学術賞・貢献賞の九州大学 石原教授の講演を(株)リコーの中央研究所（横浜市）にて開催し、両講演会ともに多数の参加者を得て好評でした。